

# 系 車

編集 山形村ふるさと伝承館



## 見性寺のつき鐘

享保十八年（一七二八）檀家

の人達が夏小麦と秋大豆を出し  
あつて造つた見性寺のつき鐘  
は、以来毎日朝夕村中に時を告  
げ長く村人に親しまれて来た。

しかし太平洋戦争中の金属回  
収令によつて清水寺の鐘と共に  
供出されてしまい、今は撞木しゅもくだ  
けとなつた鐘楼しょうろうが昔を懐しむ  
ようだ。それでも美しい姿をみ  
せている。

戦争の名のもとに尊い人命の  
みでなく、多くの文化遺産もま  
た失われてしまったのである。

# 郷土部隊

◁信州大学校内の記念碑



松本五十連隊が松本の新兵舎

に入ったのが明治四十一年の秋

で、連隊の在隊兵は「県外」、

特に青森県出身者が多かったよ

うだ。

その後、五十連隊の徴集区域

は長野県一円が対象となり、純

粋な信州の郷土部隊となる。

以来四十年の永い歴史を守り

誇りある松本歩兵五十連隊で

あったが、昭和十九年八月一日、

南方テニアンの地で全員玉碎し

て四十年の歴史を閉じ永遠に消

え去った。今その跡地に信州大

学となり戦争を知らない若者達

の学問の場となっている。

いまだ残る

戦争の傷跡

昭和十八年頃、防空対策として飛行機から目だたないようにと白壁を墨で黒くぬった。

今考えればこんな子供だましで戦争に勝つと信じたものだ。その跡が戦後五十年の今もこの白壁にのこる。

(上大池地区にて)



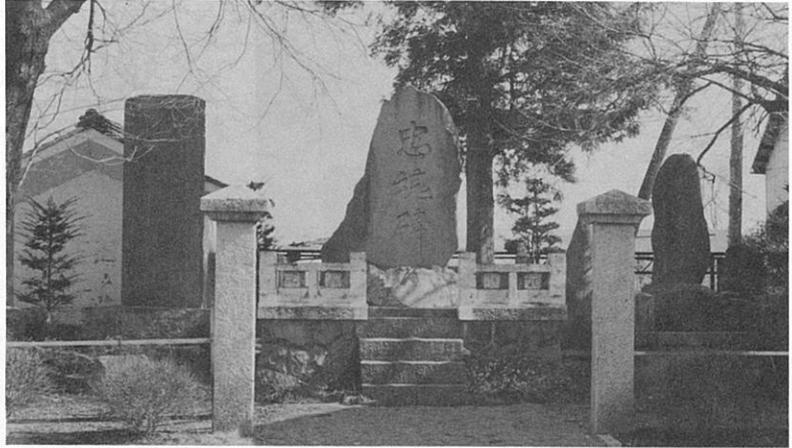
△  
◁今だに残る戦争の傷跡  
(白壁が墨で黒くぬられた跡が分かる)



—ふるさと伝承館特別展のお知らせ—

11月4日(土)・5日(日) 『戦後50年展』

※ なお両日は入館無料です。



△ 忠魂碑（ふるさと伝承館南にある）

## 忠魂碑

昭和二十二年、学校教育法施行による「六三制」実施にともない学校周辺に忠魂碑を安置することができなくなった。村では熟談の結果、碑の前庭に埋蔵することとした。

石段があるので碑を損じないよう技葉を積んで降すことにな

に撤去。昭和二十七年に再びもとの場所へ戻されたものである。

昭和二十二年  
五月二十六日

碑は大正二年  
に建てられ、

昭和二十二年  
五月二十六日

て5年後、よ  
うやく再建が  
認められ、昭  
和二十七年九  
月再建され  
た。この忠魂

碑は大正二年  
に建てられ、

昭和二十二年  
五月二十六日

り、瓦屋で  
あった下竹田  
・林守人さん  
に頼んで燃料  
用松枝五駄  
（三十束）を  
積み重ね、碑  
には上部に繩  
を張り根元を  
離しながら引  
きおろし穴の  
中へ埋め込ん  
だ。その上に  
土を山型に盛  
り、イチイ、  
ビヤクシン、  
ツツジの木を  
植えて時を過  
していた。

しばらくし  
て5年後、よ  
うやく再建が  
認められ、昭  
和二十七年九  
月再建され  
た。この忠魂

昭和二十二年  
五月二十六日

り、瓦屋で  
あった下竹田  
・林守人さん  
に頼んで燃料  
用松枝五駄  
（三十束）を  
積み重ね、碑  
には上部に繩  
を張り根元を  
離しながら引  
きおろし穴の  
中へ埋め込ん  
だ。その上に  
土を山型に盛  
り、イチイ、  
ビヤクシン、  
ツツジの木を  
植えて時を過  
していた。

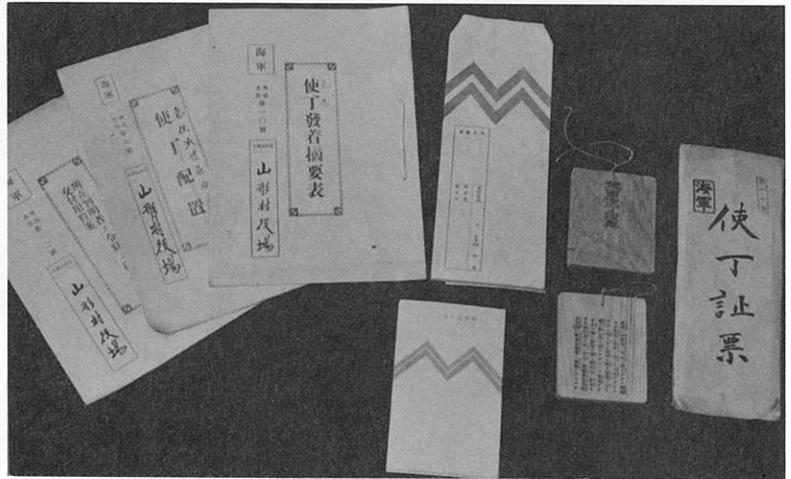
昭和二十二年  
五月二十六日

り、瓦屋で  
あった下竹田  
・林守人さん  
に頼んで燃料  
用松枝五駄  
（三十束）を  
積み重ね、碑  
には上部に繩  
を張り根元を  
離しながら引  
きおろし穴の  
中へ埋め込ん  
だ。その上に  
土を山型に盛  
り、イチイ、  
ビヤクシン、  
ツツジの木を  
植えて時を過  
していた。

## 農耕馬も

### 戦争の犠牲である

農耕馬として我が子のようにかわいがった馬が戦争のために徴発され、幾多の戦場へと消えていった。農家も農耕の主となる馬を取られ大変であった。一戸で二頭、三頭と徴発された家すらある。



△ 召集令状送達者の証

## 召集令状は地獄への招待状

突然舞い込んだ一枚の赤紙「召集令状」。命を軍隊に預けた地獄への招待状であった。戦争さえなければ陸軍二年間、海軍で三年間の現役入隊を勤めれば満期除隊となり予備役の在郷軍人となる。そして「四十才」まで有時に備えていけばよかった。

戦争になると兵力増員のため「動員令」がかげられ在郷軍人と徴兵検査で補充兵となった人が集められた。この呼出状が召集令状である。

召集令状は淡紅色の用紙を使っているから「赤紙」と言われた。

二十代後半から四十代で、皆一家の柱となつて家業を担っている時召集されることは老人・婦人、子供に家業の重みがかかつてくる。

太平洋戦争末期の召集で南方行などは皆死の招待状であった。表面喜んで内心イヤイヤながら兵隊にいったのが本音である。

### △ 忠魂碑境内の軍馬忠魂碑



# 村の名木・古木



おとば  
音羽の松

マツ科 (別名メマツ) 常緑高木  
樹皮は赤褐色または黄褐色。  
老木になると亀甲状に裂ける。  
球果は二年目の秋成熟して種子を出す。

昔清水寺があったという音羽山にあり、「音羽の松」と呼ばれる。近年近くにあずま屋ができた。

胸高周囲 二二〇cm

## 見性寺の公孫樹

いちよう

イチヨウ科 落葉高木

鴨脚樹・銀杏とも書く。原産は中国とされ、イチヨウの名も

右上 音羽の松 左上 見性寺の公孫樹 左下 中大池のやま梨

鴨脚の中国音ヤーチヤオより転訛したというが自生地は不明。雌雄異株、秋結実する種子を「ぎんなん」といい食用にする。

胸高周囲 三八六cm

## 中大池のやま梨

バラ科 落葉高木

葉は卵形、五月頃新しい枝の先に白い花を開く。果実は径二cm位、黄色又は紅色で外皮に小斑点がある。石梨、赤梨などともいう。長十郎梨の原木だといふ。

最近村内では珍しくなった「やどり木」が沢山ついている。胸高周囲 二八〇cm

